

機関学校の移転（汐留から白浜へ）

横須賀製鉄所時代
(桃色)
(明治前1864年)

横須賀造船所時代
(黄色)
(明治16年)

横須賀海軍工廠時代
(白色)



●選抜された若者に海軍そのものの素養を教育するために海軍兵学校・機関学校・経理学校が設立された。

●機関学校は横須賀造船所という現場に密着した教育が重視され、当初横須賀汐留（現在京浜急行の汐入駅付近）に設立される。

●日露戦争の風雲告げる中、海軍増勢（機関要員の増勢）の必要性から1901年（明治34年）埋め立てられた白浜地区に移転する。

●その後関東大震災の被害をうけ生徒部（後に本部）は京都舞鶴へと移転するが、高度の機関術の教育機関として工機学校は横須賀に残る。

●戦後自衛隊の素養教育は陸海空統合された防衛大学校で実施され横須賀（小原台）に所在し、すでに70年の歴史を刻もうとしている。

1901年までの機関学校（汐留）

明治初期から海軍工廠時代へと横須賀は埋め立てがどんどん進みます。当時の地図と現在を重ねて見ました。現在記念艦三笠がある場所（白浜地区）まで埋め立てが進みます。



明治5年頃の白浜海岸

明治初期の白浜は白砂青松のきれいな砂浜であったと思われます。残念ながら当時の白黒写真ではその面影は見られませんが、現在記念艦三笠がある場所まで埋め立てが進みます。

